栃木県ＰＤＣＡサイクル部会の取り組みと今後の課題

藤田　伸
栃木県がん診療連携協議会PDCAサイクル部会部会長
栃木県立がんセンター副理事長兼副センター長

栃木県がん診療連携協議会

資料3

【参加組織】

（１）がん診療連携拠点病院

◆都道府県がん診療連携拠点病院（●）　１施設

栃木県立がんセンター

◆地域がん診療連携拠点病院（●）　６施設

済生会宇都宮病院、自治医科大学附属病院、
獨協医科大学病院、上都賀総合病院、
那須赤十字病院、足利赤十字病院

◆地域がん診療病院（●）　１施設

芳賀赤十字病院

◆栃木県がん診療連携拠点指定病院（●）　１施設

佐野厚生総合病院

（２）栃木県がん治療中核病院（●）　10 施設

ＮＨＯ栃木医療センター、ＮＨＯ宇都宮病院、
とちぎメディカルセンターしもつが、新小山市民病院、
小金井中央病院、獨協医科大学日光医療センター、
国際医療福祉大学塩谷病院、国際医療福祉大学病院、
菅間記念病院、宇都宮記念病院

（３）県医師会　（４）県歯科医師会
（５）県看護協会　（６）県薬剤師会
（７）県病院協会　（８）県保健福祉部

【部会】

部会の名称	主な協議内容
ＰＤＣＡサイクル部会	がん診療に係るＰＤＣＡサイクルの確保に関する事項
地域連携・研修部会	がん診療に係る地域連携・研修（医師、看護師及びコメディカル）
相談支援部会	がん診療に係る相談支援に関する事項
がん登録部会	院内がん登録に関する事項
緩和ケア部会	緩和ケアに関する事項

PDCAサイクル部会の取り組み

- PDCAサイクル講演会
  - 加藤先生、2019年3月15日
- PDCAサイクル部会創設承認
  - 県協議会、2019年8月19日
- 第1回PDCAサイクル部会開催
  - 参加11施設、2019年12月2日
- 2019年度：活動方針を決定
- 2020年度：PDCAサイクル活動シートを用いて、各施設毎に指標を策定し、活動した。
- 2021年度以降：上記に加え、部会としての統一指標を策定し、活動している。

- PDCAサイクル活動シート概要
  - 施設名
  - 指標名
  - 指標算出法
  - 現状値、目標値
  - 現状分析
  - 問題点
  - 計画（Plan）
  - 結果（Check）
  - 改善（Act）

↓実行（Do）

「ゼロからはじめる病院のPDCA」
（医歯薬出版、2017年）を参考に作成

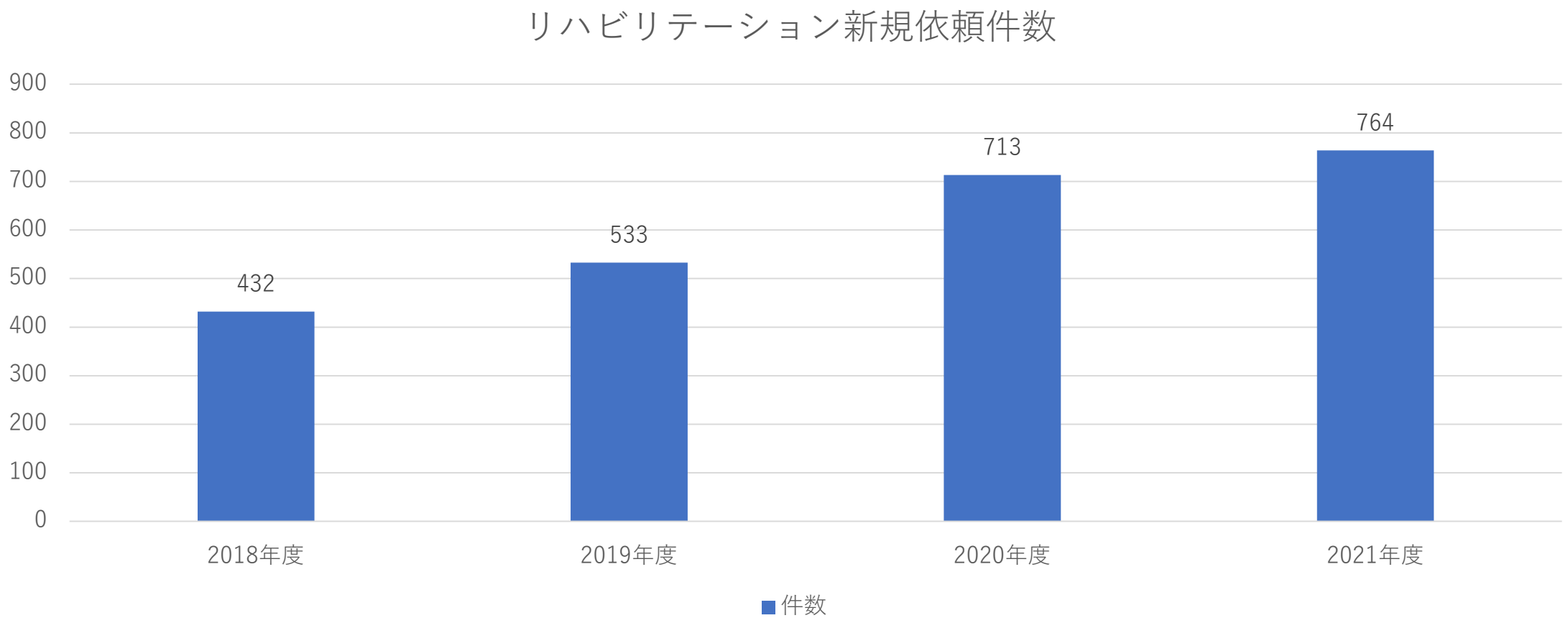
栃木県立がんセンターの活動指標

- 2020年度
  - 「がん患者指導管理料イ」の算定件数
  - AYA世代がん患者の妊孕性温存施設への紹介件数
- 2021年度
  - 入院患者におけるリハビリテーション新規依頼件数
- 2022年度
  - がん患者指導管理料イ、ロ、ハの算定件数

入院患者におけるリハビリテーション新規依頼件数

- 計画（Plan）
  - リハビリ責任者が、毎月のリハビリ診療実績をリハビリ関係全職員に周知する。
  - 療法士が、病棟診療科カンファレンス等に可能な限り出席し、患者動向を把握する。
  - リハビリ対象となる患者を、療法士の方から主治医にへ相談する（逆依頼）。
- 実行（Do）
  - リハビリ責任者から、リハビリ関係全職員に診療実績を定期的にメール配信する。
  - 月10回以上のカンファレンス参加する。
  - 主治医へ相談を積極的に行う。

評価（Check）


リハビリテーション新規依頼件数
900
800
700
600
500
400
300
200
100
0
432
533
713
764
2018年度
2019年度
2020年度
2021年度
件数

改善（Act）

- 療法士が参加出来るカンファレンスの診療科に偏りがあった。
  - 療法士がカンファレンスに参加するための時間調整が困難なため、カンファレンス以外の場でも病棟スタッフと面談し、患者動向を把握することとする。

- 依頼の少ない診療科医師への依頼が十分ではなかった。
  - 効果的な方法を検討する。

2021年度統一指標

- 統一指標
  - 新型コロナ感染症拡大による2020年におけるがん検診控え、受診控えが深刻であった事を踏まえ、「がん検診・受診控え防止」を統一目標とした。

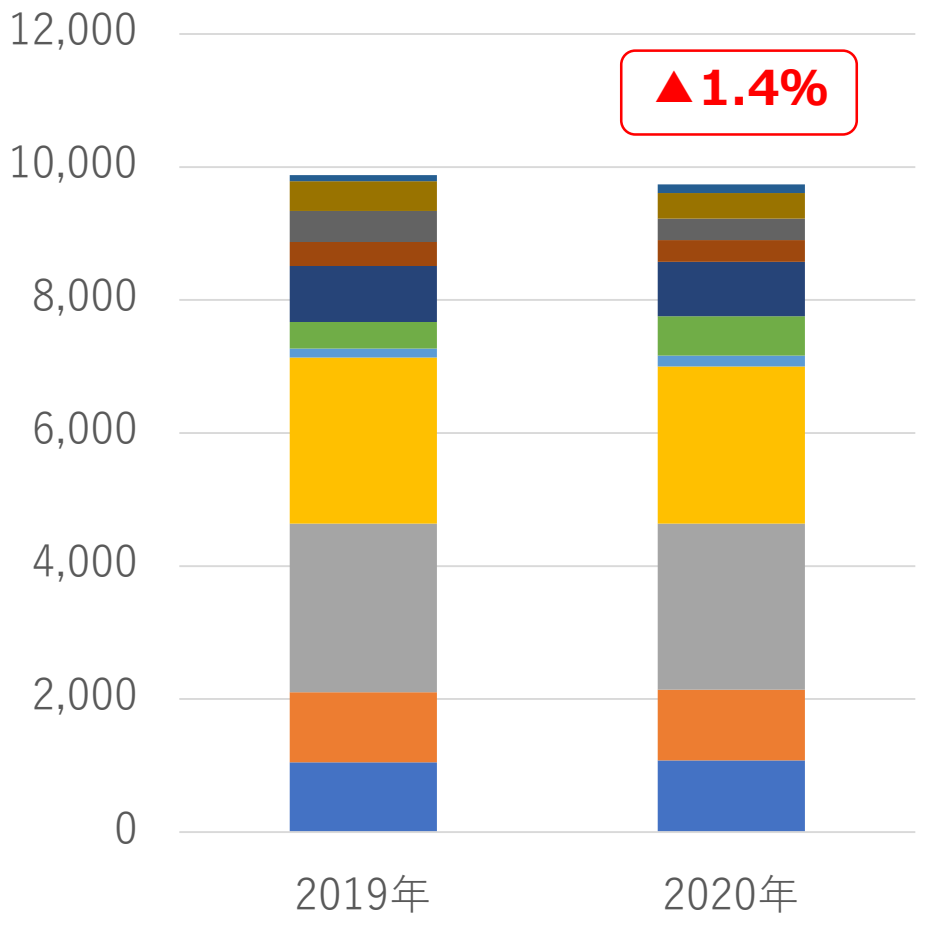
- 計画（Plan）
  - 2020年のがん検診控え、受診控えの実態を把握する。
  - 把握したデータを基に、県民にがん検診・受診控え防止の啓発を行う。

- 実行（Do）
  - 参加各施設に2019年、2020年の診療実績の提供を依頼した。
  - がん検診・受診控え防止ポスター、パンフレットを作成し、県民啓発活動を行った。

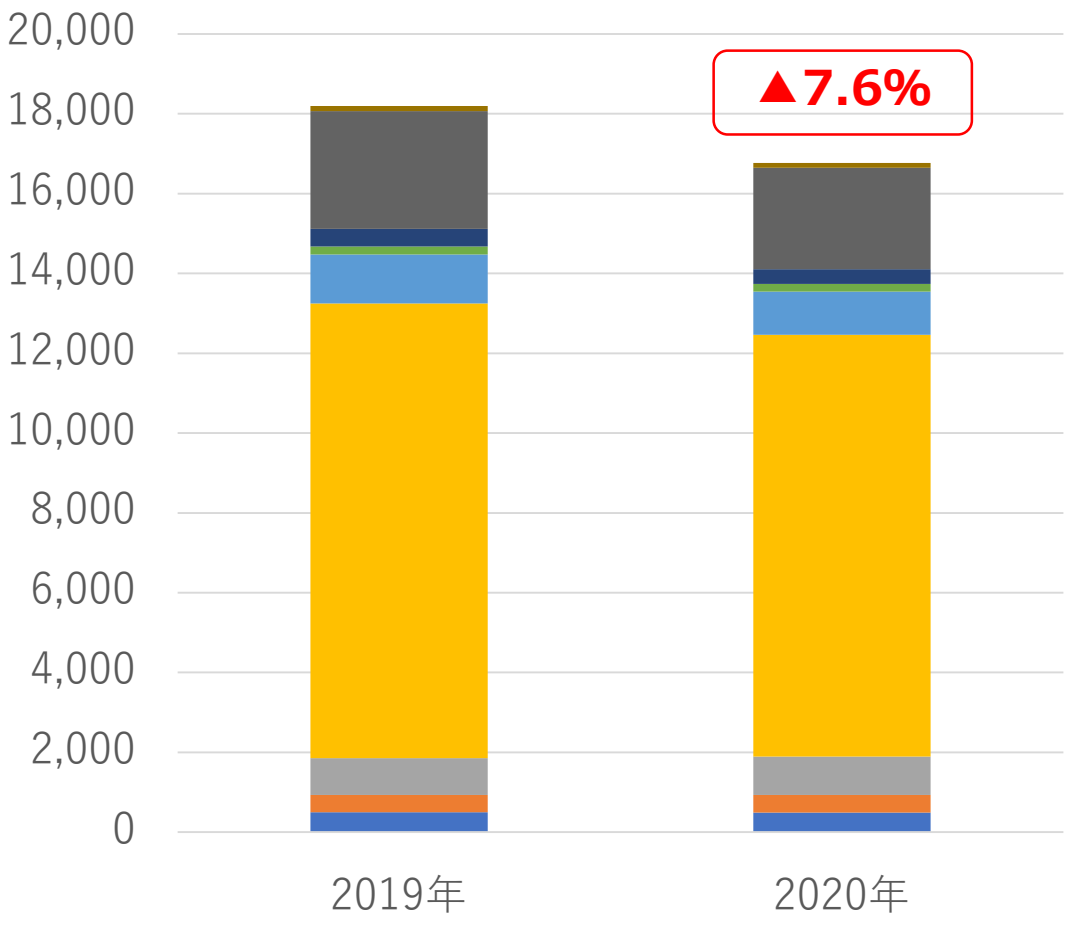
新型コロナ感染症のがん診療への影響

参加11施設の診療実績を用いた検討

悪性腫瘍の手術件数の推移



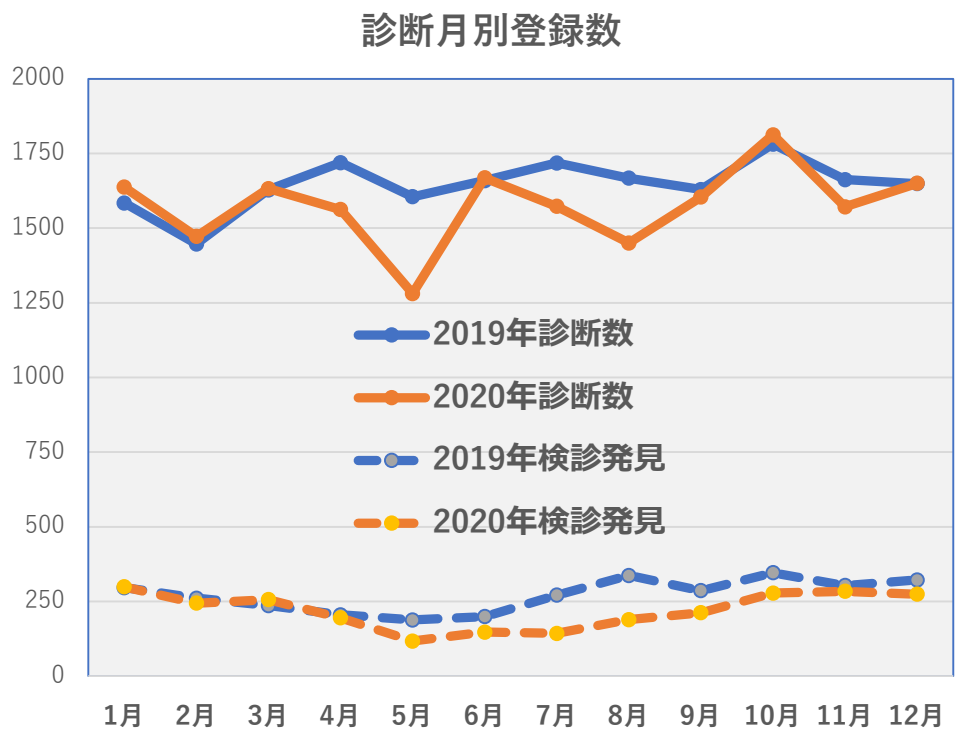
放射線治療のべ患者数の推移



新型コロナ感染症のがん診療への影響

栃木県18施設のがん登録を用いた検討

大木いずみ[1) 2)]　藤田伸[2)]　1）埼玉県立大学　2）栃木県立がんセンター



【結果】

・栃木県がん診療連携協議会参加施設において、感染拡大後の2020年症例は2019年に比べて登録数が減少した。前年比は4.2％減。男性の減少が大きく（6.3％減少）、女性は（1.5％減少）であった。

・年齢階級別では、40歳未満で減少せず、40歳以上で減少した。

・県外住所の登録数は減少しなかった。

・上皮内、限局、リンパ節転移は減少したが、隣接臓器浸潤、遠隔転移は変わらなかった。

・検診による影響が観察された。

・5月と8月の登録数が減少した。検診部位においては、5月の検診発見登録数が減少した。

がん検診・受診控え
防止ポスター

がん治療中の患者さんへ

がん検診や受診、治療などを先延ばしにしていませんか？

新型コロナウイルス感染症の流行下でも、
がんの診療は必要な医療です。
新型コロナウイルスの感染を恐れるあまり、
がん治療のタイミングを逃してしまうことがないよう、
主治医にご相談ください。

- ☑ 主治医に相談
- ☑ 生活習慣病の健診・受診
- ☑ がん検診

※生活習慣病やがんの早期発見には、
定期的な健診と適切な受診が重要です。

**健康が気になる今だからこそ
必ず受診しましょう。**

栃木県がん診療連携協議会ＰＤＣＡサイクル部会

がんに関するホームページ
『がん情報とちぎ』 http://www.ganjoho-tochigi.jp/
『がん情報サービス』 http://ganjoho.jp

配布先

- 栃木県がん診療連携協議会18施設
- 県内25市町
- 県内6検診機関

今後の展開

- PDCA部会として発足したものの、部会名から何をする部会なのか思い浮かばないと感じていた。
- 2022年8月の「がん診療連携拠点病院等の整備に関する指針」の改定で、「PDCAサイクルの確保」が「医療の質の改善の取組及び安全管理」に変更・拡充された。
- これを機に部会名を「がん医療の質向上部会」と変更し、部会の目的を明確化し、PDCAサイクルを含む、様々な手法を用いて、栃木県のがん医療の質向上を図っていく予定である。
  - OODA（Observe, Orient, Do, Action）
  - PDR（Preparation, Do, Review）など